

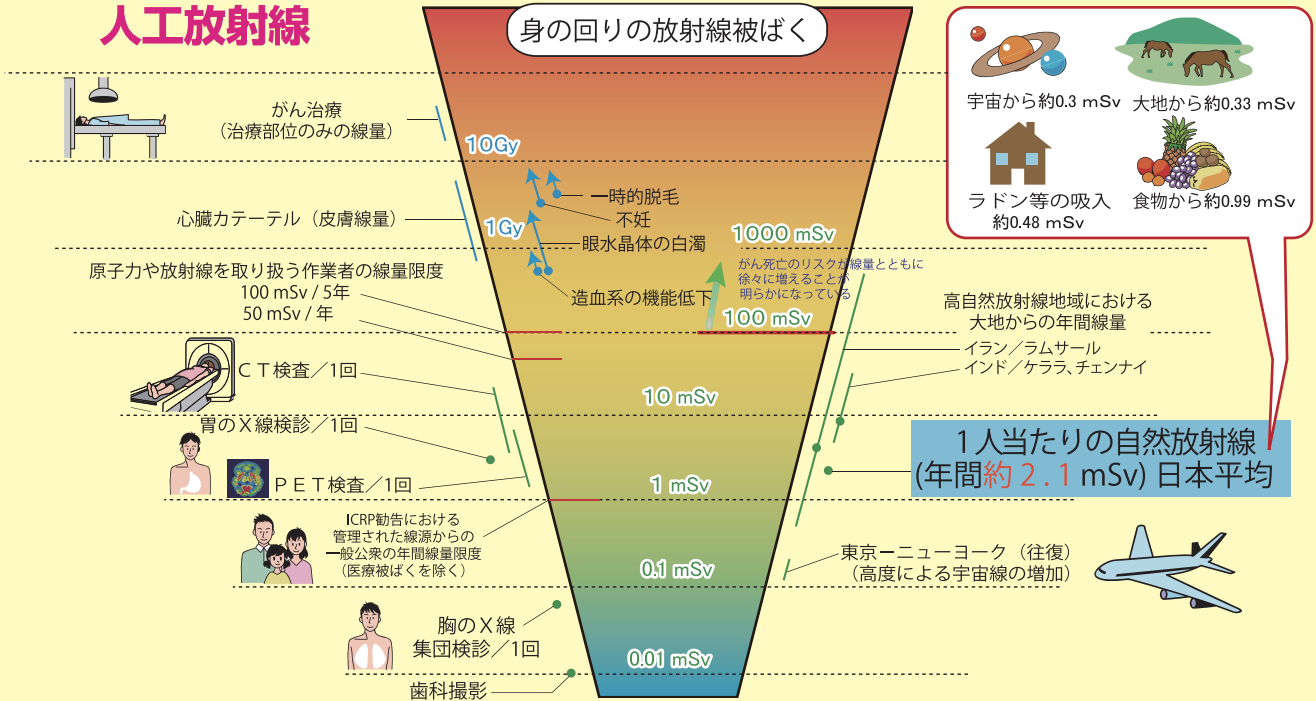
原子力災害への備え

身の回りの放射線量

放射線被ばくの早見図

自然放射線

人工放射線



- ・ UNSCEAR 2008年報告書
 - ・ ICRP 2007年勧告
 - ・ 日本放射線技術師会医療被ばくガイドライン
 - ・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)
- などにより、放射線医学総合研究所が作成(2013年5月)

【ご注意】

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛(点線)は対数表示になっています。目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。

【線量の単位】

各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)

放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)

臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について重み付けをして全身で受けた量を足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。

各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で1000 mSvに相当する。

屋内退避の指示が出たら

自宅や職場及び公共施設の中に速やかに入りましょう。なお、コンクリート作りの建物は、木造に比べて放射線の遮へい効果が高いです。

食品に含まれる放射性セシウム基準

農作物、水道水、給食、加工食品及び自家消費野菜などについては、放射能の検査を実施しています。検査結果は、市ウェブサイト等で公表されています。

次の点を注意しましょう

- 1 外から帰ってきたら、顔、手、頭等を洗い、うがいをしましょう。
- 2 特に指示があったときは、着ていた衣服を脱ぎ、ビニール袋に入れ、しっかりと密封しましょう。
- 3 防災行政無線、テレビ、ラジオ、インターネット等で新しい情報を入手しましょう。
- 4 ドアや窓を閉め換気扇を止めましょう。

厚生労働省が定める食品に含まれる放射性セシウムの基準値

